

台湾から発見された2種のツツクシヒゲコメツキダマシ

鈴木 互

〒211-0031 川崎市中原区木月大町6-1 法政大学第二高等学校生物科 (elater2003elater@yahoo.co.jp)

Notes on Two Species of the Genus *Semnodema* (Coleoptera, Eucnemidae) from Taiwan

Wataru SUZUKI

Abstract. *Semnodema harmandi* Fleutiaux and *S. punctata* Otto are recorded from Taiwan for the first time. In this report, they are redescribed and illustrated based on the specimens collected in Taiwan. In general appearance, they are very similar to each other, but can be identified by the difference of punctuation on the pronotum, the presence or absence of spines on the forehead in male, and the shape of male genitalia.

台湾に生息するコメツキダマシについては、これまでに断片的な報告がわずかにあるだけで、まとめられた報文はない。Miwa (1931), 鈴木 (2010), Chung & Shao (2019) を整理すると、台湾からこれまでに記録のあるコメツキダマシは18種である。研究がまだ十分とはいえない日本でさえ80種余りが知られていることを考えると、台湾のコメツキダマシは、ほとんど手がつけられていない状態にあるといえよう。筆者は、台湾のコメツキダマシについても資料の収集を図っているが、最近、台湾から記録のなかったツツクシヒゲコメツキダマシ属 *Semnodema* を2種見いだすことができたので、ここに報告しておきたい。

本報告をまとめるにあたり、台湾産の標本を調査させていただいた藍艶秋博士(康寧大學)、益本仁雄博士(東京都)、高橋敬一博士(牛久市)、露木繁雄氏(逗子市)、上田康之氏(藤沢市)、タイ産の比較標本を調査させていただいた故秋山黄洋氏と秋山秀雄氏(横浜市)、同定の確認をしていただいた Robert L. Otto 博士(ウィスコンシン州)、文献でお世話になった何彬宏氏(國立中興大學)に厚くお礼申し上げる。なお、調査に用いられた標本は、現在のところ筆者が保管している。

Semnodema Bonvouloir, 1871

ツツクシヒゲコメツキダマシ属

Semnodema Bonvouloir, 1871: 75 (in key); Bonvouloir, 1875: 781–782; Gemminger et Harold, 1869 [?]: 1484; Fleutiaux, 1901: 650; Fleutiaux, 1921: 30 & 81 (key); Fleutiaux, 1923: 321 (key), 329; Fleutiaux, 1924: 11 (key), 17; Fleutiaux, 1926: 33 & 39; Schenkling, 1928: 20 (catalogue); Fleutiaux, 1947: 14 (key), 27–28; Muona, 1991: 168; Muona, 1993:

53; Otto, 2016: 290 (key), 295–296 (redescription).

Type species: *Galbodemus flabellicornis* Castelnau, 1835, designated by Fleutiaux (1902: 650).

チャイロコメツキダマシ亜科 Macraulacinae のチャイロコメツキダマシ族 Macraulacini に所属する (Muona, 1991, 1993).

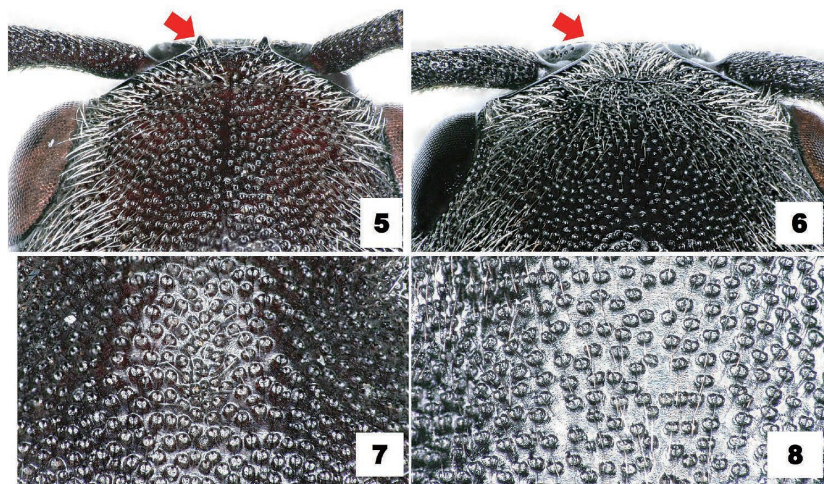
頭楯前縁は弱く3波曲し、中央は幅広く丸くなる。複眼と頭楯の間は深い触角溝を備える。触角は短く、前胸後角に届くかわずかに越える程度。第3～10節は、雌雄共に長く櫛歯状。前胸上側板は、前角から後角にかけて外縁に沿って深い触角溝を備える。触角溝は無点刻で、光沢がある。前胸背腹縫合線は、狭くはっきりと縁取られる。前胸腹板突起は横から見ると水平で、厚さは先端に向かって広くなり、末端は大きく湾入する。同突起を腹面から見ると先端に向かって狭くなり、末端で小さく「へ」の字形に切れ込む。跗節は普通であるが、雄は前脚跗第1節下面に性節を備える。第2～4節の各節は、それぞれ先端に向かって拡張し、第4節では逆三角形形状となる。第4節の背面は深くえぐられ、その基部から爪が生じる。爪は基部が太く、中央部で深く切れ込み、2歯状となる。後基節板は平行状で(後縁部が後方に強く張りだして角張ることはない)、後縁の末端に逆三角形の小突起をもつ。上翅は会合部が先端手前で両側広がり、それぞれの翅端は狭まり尖る。腹部末端節は後方に狭まり、末端は突起状に伸び、先端は狭く裁断される。

分布。台湾、インド、インドシナ半島、マレー半島、スマトラ、ボルネオ、ジャワ、フィリピン、ニューギニア。

ツツクシヒゲコメツキダマシ属は、同じチャイロコメツキ族 Macraulacini に所属するクロクシヒゲ



Figs. 1 & 3, *Semnodema harmandi* Fleutiaux, ♂ (southern Taiwan); 2 & 4, *S. punctata* Otto, (central Taiwan). 1 & 2, dorsal habitus. 2 & 4, head and pronotum.



Figs. 5 & 7, *Semnodema harmandi* Fleutiaux, ♂ (southern Taiwan); 6 & 8, *S. punctata* Otto, ♂ (central Taiwan). 5–6, frons; arrows showing the presence or absence of spines. 7–8, punctation on the central portion of pronotum.

コメツキダマシ属 *Procladidus* に似るが、触角が雌雄共に単純に櫛歯状であることにより、雌雄共に双櫛状の触角をもつ後者とは識別できる。触角が単純に櫛歯状である点では、台湾やラオスに生息する *Raapia* 属にも似るが、前胸腹板突起腹面は後方により強く狭まること、後基節板が平行状である点で識別できる。

今回、台湾から2種のツツクシヒゲコメツキダマシ属が発見されたことにより、本属の分布域の北限は台湾まで伸びる。現在のところ、日本からは本属に所属する種は確認されていないが、日本

は熱帯アジアに広く分布する *Galbites*, *Henecocerus*, *Hodocerus*, *Procladidus*, *Serrifornax* など、属の分布域の北限に位置するものが多く存在することから、注意を払っていただきたい。

Semnodema harmandi Fleutiaux, 1896

(Figs. 1, 3, 5, 7, 9–10)

トゲツツクシヒゲコメツキダマシ

Semnodema Harmandi Fleutiaux, 1896a: 297 (description: Siam, Nouvelle-Guinée); Fleutiaux, 1896b: 601 (Nouvelle Guinée); Fleutiaux, 1923:



Figs. 9–12. Male genitalia of *Semnodema* spp., ventral view. 9–10, *S. harmandi* Fleutiaux (southern Taiwan); 11–12, *S. punctata* Otto (central Taiwan). Arrows showing the constriction states in the left parameres.

329; Fleutiaux, 1924: 18 (Haut-Mékong, Tong-La); Schenkling, 1928: 20 (catalogue); Fleutiaux, 1947: 28 (Tonkin, Chapa).

Semnodema harmandi: Muona, 1993: 10; Otto, 2016: 295–296 (Laos: redescription).

♂. 体長：8.8 mm；幅：3.2 mm. 体は筒状で、ほぼ並行。体は黒色であるが、頭部や前胸背板はやや赤みを帯びる。頭部および前胸背板は光沢が鈍く、上翅は光沢がある。頭部は一様に盛り上がり、前頭部でははっきりと平圧される；基部中央から頭循手前にかけて1本の明瞭な縦隆線を備える。頭部は触角間で強く食い込むように狭まり、最も狭まったところに、1対の棘状突起を備える (Fig. 5)。表面は臍状の小点刻が密布され、点刻間の距離は点刻直径より狭い。頭楯の点刻は輪郭が不明瞭となり、粗雑となる。触角第1節は幅とほぼ等しく、外縁は先端近くに毛を密生する。前胸背板は幅広 (1.0: 1.2) で、強く膨隆し、中程の両側に1対の明瞭な凹みがあり、基部に近い両側は大きく膨らむ。表面は楕円形の点刻で被われ、瘤の部分ではより密となり、点刻がつながり、皺状となる。基部中央には1本の明瞭な縦線を備える。上翅の条線は基部1/3では浅く認められるが、後方では第1条を除き不明瞭となる。間室は点刻が疎らで、光沢があるが、基部1/4では粗雑となり、光沢は青みを帯びる。前胸腹板突起は、横から見ると水平で、末端は大きく丸くえぐられる；腹面角はやや短く、背面角は後方に長く伸展し尖る。雄交尾

器 (2.7 mm) は細長く、基部の4.9倍。側片は先端部手前で強くくびれる (Figs. 9–10)。

♀. 体長：15.3 mm；幅：4.3 mm. 雄に似るが、より大型で、頭部には棘状突起がない。

検視標本。[TAIWAN]：1♂, Nanrenshan (南仁山), Kending, Pingtung Pref., 7–9. VI. 2013, Keiichi Takahashi leg.; 1♀, Daren Linchan (達仁林場), Taitung Pref., 4. V. 2014, Shigeo Tsuyuki leg.

比較標本。[VIETNAM]：1♀, Cao Bang, 19–22. 1996, local collector; 1♂ 1♀, Mt. Tamdao, Vinh Phu prov., V. 1997, local collector; 1♀, Mt. Tamdao, Vinh Phu prov., V. 1999, local collector; 2♂♂ 1♀, Mt. Tamdao, Vinh Phu prov., VII. 1999, local collector; 1♂, Bao Loc, Lam Dong Prov., 2–8. IV. 2000, local collector; 1♂, Bao Loc, Lam Dong Prov., 20–23. V. 2000, local collector. [THAILAND]：1♀, Mt. Doi Suthep, Chiang Mai, 23. V. 1978, K. & H. Akiyama leg.; 1♀, Mt. Doi Suthep, Chiang Mai, 2. VI. 1978, K. & H. Akiyama leg.; 1♀, Mt. Doi Pui, near Meo Village, 1,400–1,500m, Chiang Mai, 28–31. V. 1979, W. Suzuki leg. [LAOS]：1♀, Xieng Khouang, Laos, IV. 1996, local collector; 1♀, Mt. Phu Pane, Hua Phan Prov., 900–1,600m, 10–21. VI. 2010, St Jakl & Lao collectors leg.

分布。台湾 (新記録), インド, タイ, ラオス, ベトナム, フィリピン, ニューギニア。

備考。台湾産の標本は、康寧大學の藍艷秋博士の要請の下で実施された「墾丁國家公園5年間継続調査昆虫相調査プロジェクト」において得られ

たものである。

台湾産の個体は、タイ、ラオスの個体と前胸背板の起伏の状態や瘤状突起の隆起は同様であったが、調査できたベトナム産の個体では、台湾などの個体に比べ、前胸背板の起伏はなだらかで瘤状突起の隆起は弱いなどの差が認められた。

***Semnodema punctata* Otto, 2016** (Figs. 2, 4, 6, 8, 11–12)

ツツクシヒゲコメツキダマシ

Semnodema punctata Otto, 2016: 296–298, Figs. 116–118 (Laos).

♂. 体長: 11.9 mm; 幅: 3.2 mm. 体は細長く、平行に近いが、上翅は後方に徐々に狭まる。体は全体が黒色であるが、両側の中程に不明瞭な暗橙色の斑が認められることがある。背面の毛は黒褐色であるが、頭部や前胸背板の周辺部、上翅基部 1/10 の毛は銀色～淡黄色となる。頭部基部中央の縦隆線は短い。表面は円～楕円形の点刻で被われ、点刻間の距離は点刻直径より明らかに狭い。頭部は触角間で強くくびれるが、棘状突起は存在しない (Fig. 6)。前胸背板は、幅広 (1.0: 1.2) で、後角手前で最大となる。表面は、頭部同様に密に点刻されるが、点刻間は微細なしわ状構造があり、光沢は鈍い。点刻は、前縁部分ではかなり疎らとなる。後方の瘤部分では、より密になるが、点刻がつながることはない。中央に 2 対の凹みがある。1 対は中央の両側にあり、円形に近く、もう 1 対は基部近くの両側にあり、明瞭。上翅は、基部肩幅の 2.7 倍、平行に近いが、後方に徐々にせまくなる。間室は細かい点刻で一様に被われるが、基部では横皺状となる。光沢は強いが、青みがかった光沢とはならない。雄交尾器 (2.8 mm) は細長く、基部の約 4.6 倍。側片は先端部手前で徐々にくびれる (Figs. 11–12)。

♀. 体長: 13.4 mm; 幅: 3.5 mm. 雄に比べ大型。上翅は、より平行状で、基部肩幅の 2.7 倍。前胸背板の点刻はより浅い。ときに点刻はつながることがあるが、しわ状にはならない。

検視標本。[TAIWAN]: 1 ♂ 1 ♀, Mt. Kuntao (関刀山), Nantou Pref., 23. VI. 1995, Chinch Lo leg.; 1 ♀, same locality; 5–11. VIII. 1995, Yasuyuki Ueda leg.; 1 ♀, same locality, 23. VII. 1996, Yasuyuki Ueda leg.

分布。ラオス、台湾 (新記録)。

備考。Otto (2016) によると、ラオス産の個体の体長は、雄では 10.0–12.0 mm、雌では 12.0–15.0 mm と幅があり、上翅には小さなオレンジ斑が認められものや欠くものなど変異が認められている。

上田氏によると、氏が採集した個体は、関刀山

の中腹で吹き上がってきたものをネットしたものか吹き上げ場所にあった材に止まっていたものだろうである。

本種は、前種のトゲツクシヒゲコメツキダマシ *S. harmandi* Fleutiaux, 1896 に酷似するが、前胸背板の点刻は疎らであること (Fig. 8)、雄では前頭部に 1 対の棘状突起を持たないこと (Fig. 6)、雄交尾器の側片は先端部手前で徐々にくびれることにより識別できる。

引用文献

- Bonvouloir, H. A. de., 1871. Monographie de la Famille des Eucnémides, 1ère partie. Annales de la Société Entomologique de France, 40 (Supplement): 1–288, pls. 1–21.
- Chung, K.-F. & K.-T. Shao, 2019. Checklist of Taiwanese species: Insecta, Coleoptera, Eucnemidae. URL http://taibnet.sinica.edu.tw/chi/taibnet_species_list.php?D2=family&D3=equal&T1=Eucnemidae&T1_new_value=false&query=Y&fr=y&sy=n (2019 年 12 月 23 日アクセス)。
- Fleutiaux, E., 1896a. Collection des Eucnemidae du Museum d'Histoire Naturelle de Paris. Mémoires de la Société Zoologique de France, 9: 278–299.
- Fleutiaux, E., 1896b. Eucnémides Austro-Malais du Musée civique de Gènes. Annali del Museo Civico di Storia-Naturale di Genova, 26: 555–606.
- Fleutiaux, E., 1902. Essai d'une classification des Melasinae (Eucneminae des auteurs). Annales de la Société Entomologique de France, 70: 637–664.
- Fleutiaux, E., 1924. Faune Entomologique de L'Indochine Française I. Coléoptères Serricornes Fam. Melasidae. Opuscles de l'Institut Scientifique de l'Indochine, 2: 7–184.
- Fleutiaux, E., 1947. Révision des Eucnémides (Coléoptères) de l'Indochine française. Notes d'Entomologie chinoise, Musée Heude, 11: 1–68.
- Gemminger, M. & E. F. von Harold, 1869 [?]. Catalogus coleopterorum hucusque descriptorum synonymicus et systematicus, 5 (Buprestidae, Trixagidae, Monommidae, Eucnemidae, Elateridae, Cebionidae): 1347–1608. Monachii.
- Miwa, Y., 1931. A systematic catalogue of Formosan Coleoptera. Report of the Department of Agriculture Government Research Institute of Formosa, (55): 1–359.
- Muona, J., 1991. The Eucnemidae of South-east Asia and the Western Pacific - A Biogeographical Study. Australian Systematic Botany, 4: 165–182.
- Muona, J., 1993. Review of the phylogeny, classification and biology of the family Eucnemidae (Coleoptera). Entomologica Scandinavica, Supplement, (44): 1–133.
- Otto, R. L., 2016. The false click beetles (Coleoptera: Eucnemidae) of Laos. Entomologica Basiliensia et Collectionis Frey, 35: 181–427.
- 鈴木 互, 2010. 台湾から発見されたチャイロビロウドコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (169): 7–8.

(2020 年 3 月 30 日受領, 2020 年 5 月 20 日受理)